

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

(353)

良好な就職環境

知の基盤としての

「科学の再興」を目指す

約1・8倍、人口当たりでは約2・7倍に達する。

独、博士キャリア改善急ぐ

は、研究機関が大学と連携して指導を行う博士課程プログラムに参加する。

研究者流動促す

博士号取得者の就職状況は良好で、特に化

は、研究機関が大学と示されている。デミアに残るのはわずか18%だが、ドイツでは40%超が残る。ただ、そのポストをめぐる競争は極めて激しい。教授就任の平均年齢は40歳前後で、他の職業に比べてライフ

か研究機関に在籍でき果を上げて安定した研究ポストを得られなければならないと定められている。アカデミアを離れざるを得ない構造を生んでいる。海外でのポスト経験や民間資金による雇用期間は算定から除外される措置もあるが、不安定な職

が25年に開始され、同年6月までに300人を超える研究者を獲得した。しかし、外国人研究者の定着を図るためには、研究環境のさらなる整備が不可欠だとの見方が大勢だ。博士人材の確保に向けては、人数の拡大だけでなく、多様なキャリアパスと安定した研究環境の構築が、日独共通の課題といえる。

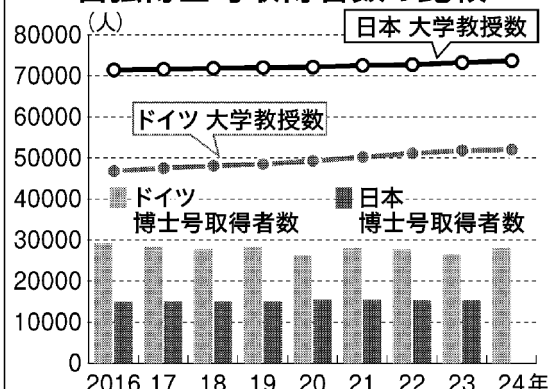
ドイツで博士号を取得する人は年間約2万8000人で、日本の



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター
フェロー(STI基盤ユニット) 澤田 朋子

00年にミュンヘン大学政治学部大学院修了(国際政治学専攻)。帰国後はIT系ベンチャー企業でウェブマーケティング事業の立ち上げに参加。14年から現職。

日独博士号取得者数の比較



出典:ドイツ連邦統計庁(DESTATIS)、文部科学省 科学技術・学術政策研究所、e-Stat 政府統計の資料を基に作成

無断転載・複写禁止 (株)日刊工業新聞社